

この度、外部有識者など5人の委員で構成される改革プラン評価委員会（会長 富山大学附属病院長 塚田一博）において、平成26年度の実績状況を点検・評価したので、その結果を公表します。
なお、詳細については、病院ホームページ（<http://www.kamichi-hosp.jp/>）をご覧ください。

達成状況の区分 A…目標以上 B…一定の実績 C…実績不足

1. 財務に係る数値目標

主な数値目標	平成26年度			平成27年度
	計画値	実績値	達成状況	計画値
経常収支比率	97.5%	96.7% (93.8%) ()は新会計基準	B	97.4%
職員給与比率	63.5%	63.7% (64.4%) ()は新会計基準	B	63.7%
病床利用率（一般）	82.0%	69.5% (74.6%) ()は稼働病床数	B	82.0%
平均在院日数（一般）	15.0日	15.1日 (20.3日) ()は回復期含む	B	15.0日
医業収支比率	89.8%	92.3% (91.6%)	A	89.8%
不良債務比率	0%	0%	A	0%
患者1人1日当たり診療収入（入院）	30,310円	33,679円	A	30,524円
患者1人1日当たり診療収入（外来）	9,438円	9,884円	A	9,627円
新規入院患者数	2,450人	2,091人	B	2,450人
医業収益対薬剤費	14.0%	12.4%	A	13.5%
医業収益対診療材料費	5.5%	5.8%	B	5.0%
医業収益対経費	17.5%	17.0%	A	17.5%

取組内容

- ① 経常収支は、収益以上に費用が伸びたことにより、計画値を未達成。
- ② 医業収支は、外来・入院収益の増加により、計画値を達成。
- ③ 職員給与比率は、職員の増員、新会計基準の導入などにより、計画値を未達成。
- ④ 回復期病棟を導入したが、病床利用率は、計画値を未達成。
- ⑤ DPC導入により、平均在院日数は短縮したが、計画値を未達成。
- ⑥ 薬剤費は、院外処方と後発薬品の推進により、計画値を達成。

2. 医療機能に係る数値目標

主な数値目標	平成26年度			平成27年度
	計画値	実績値	達成状況	計画値
1日平均患者数（入院）	169.5人	145.1人	C	172.7人
1日平均患者数（外来）	489.2人	482.2人	B	492.4人
紹介率	32.0%	25.1%	B	33.0%
分娩件数	115件	119件	A	120件
乳児一般健診件数	165件	167件	A	170件
退院前訪問看護件数	90件	120件	A	95件
学習入院数	48件	53件	A	48件
在宅訪問診療件数	400件	650件	A	400件
在宅復帰率	70%	91.2%	A	70%
住民健診実施数	680人	623人	B	690人
手術件数	870件	840件	B	880件
認定看護師数	5人	5人	A	8人

取組内容

- ① 患者数は、外来・入院ともに前年より増加したが、計画値を未達成。
- ② 分娩件数、乳児の健診数は、医師の複数体制により、計画値を達成。
- ③ 退院前訪問件数、在宅訪問診療、在宅復帰率は、在宅医療の取組により、計画値を達成
- ④ 手術件数は、脳外科以外の診療科での減少により、計画値を未達成。
- ⑤ 認定看護師数は、医療の質の向上に積極的に取り組み、計画値を達成。

【評価委員の評価・指摘事項】

- ① 地域包括医療・ケアの拠点として、十分機能している。中でも産婦人科、糖尿病センターの設置は特質すべき事項である。
- ② 精神科病棟の稼働率が50％を切り始めており、病床削減も含めて検討が必要である。
- ③ 病床削減には、得失分析や精神科病床の認知症疾患治療病床への転換も併せて検討されたい。
- ④ 在宅療養支援病院への転換には、先行事例の研究や収益とコストなど密な計算が必要である。
- ⑤ 病院から在宅へと切れ目のない医療・介護体制の構築に向けて努力されている。
住民が期待する医療サービスの向上に向けて、より一層努められたい。
- ⑥ 未達成が全体の40％程度あり、数値達成に向けて具体的方策を検討実施してほしい。
特に損益収支に影響の大きい項目について努力されたい。
- ⑦ 後発医薬品の使用は、患者負担の軽減、引いては保険料の軽減にもつながるので、可能な限り使用されたい。

●数値目標達成に向けての具体的な取組

① 収入増加・確保対策（主なもの）

内 容	平成26年度			平成27年度	実績および成果等
	計画値	実績値	達成状況	計画値	
医師の増員	1人増（収益1億円増）	1人増（収益9,744万円増）	B	1人増（収益1億円増）	常勤医師、非常勤医師の確保
病棟薬剤師配置による増収	1,200万円	1,335万円	A	1,400万円	指導件数の増嵩
管理栄養士配置による増収	230万円	143万円	B	300万円	チーム医療体制の強化
リハビリテーションの充実	1億9,100万円	1億7,549万円	B	2億5,100万円	回復期病棟スタッフ体制の強化
健診・ドック利用者の拡大 （年間健診センター利用額）	8,000万円	8,627万円	A	8,000万円	土曜レディース健診の継続実施
未収金の徴収強化	200万円	328万円	A	200万円	徴収専門員等による徴収強化、 預かり金、カード決済の推進

② 経費削減・抑制対策（主なもの）

内 容	平成26年度			平成27年度	実績および成果等
	計画値	実績値	達成状況	計画値	
SPD・共同購入による経費節減	300万円	295万円	B	200万円	SPD導入、共同購入の推進
時間外勤務手当の抑制	100万円	280万円	A	100万円	ワークライフバランスの取組
院外処方箋の発行率向上	600万円	607万円	A	300万円	外来、透析での発行率の増嵩
ジェネリック薬品の採用率					入院を中心に採用率の増嵩
業務委託の内容および金額の見直し	180万円	307万円	A	200万円	削減交渉による経費削減
施設・設備の省エネ・エコ化	100万円	-295万円	C	300万円	節減対策の取組

平成26年度の病院の業績は、回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの施設基準を取得し、更なる回復期医療体制の充実強化を図ったほか、磁気共鳴断層装置（MRI）と乳房X線撮影装置の入替や病棟の二重窓への改修、院外処方の推進やジェネリック薬剤の使用促進など、病院の質の向上と経営効率化に向けて積極的に取り組みましたが、新会計制度の導入や消費税率の引上げなどにより、昨年度に比べて赤字幅が大きく拡大しました。

今後は、病床機能の分化と再編、必要病床数の適正化が求められる中で、限られた医療資源を最大限に活かしながら、地域完結型医療を目指して、在宅医療や予防医療への取組をさらに推進し、より一層の差別化と機能強化を進めることにより、地域住民が安心して医療を受けることができる病院を目指して地域医療体制の充実に努めるとともに、病院経営の健全化に向けた収益の確保とさらなる経費削減対策の推進に鋭意取り組んでまいります。